

亂暴醜惡・限りなき

案山子とスツポンの罪狀？

株主預金者は醜類をやつちまへ！

不正貸付をなし、共々背任。例令は、借受人がスツボる單名手形亂發による金融行爲を犯して私腹を肥やしシの許に行き金子用立を哀カラクリ、不正なる貸付をして居るとの風評は一般周知訴哀願に及ぶと、スツボン幾十番百回に亘つて爲しつゝの事であるが、過般某新聞は『この不況だから無資産ゝあるか？』

に於てもこの事實の一端をの君に無擔保を以て銀行が案山子の某銀支店詰めと摘發して不良貸付の記事を信用貸をしてくれることは就任してより今日に至る報導してゐる。而るに彼奴期待されない、だが物は話約二年半その間に於て無慮等は毫も已れの惡徳に反省しの決めやうだ詰り、この二十餘萬圓の不良貸付をなせざるのみか今尙單名手形わしが(スツボン)が約束してゐるといはれてゐる。

の發行による詐欺的行爲に手形を裏書き保證してやれこの亂暴奇怪なるヤマカン終始してゐる。今やこの奇怪なる罪狀は明確なる事實ではない、その變り裏書を保聞、ゴシツプもどきのものとして世論の粗上に登らんとしてゐるのだ。

で借入金金の二割をわしに出而も見よ！ 破奴等は新

今回本社は端なくもこの事費して貰へばよい、少くもあるを探致し、目下その具借受人の保證をするのだから體格的證憑の蒐集に努めつゝ、い毫も不服はないだらう』あるが、明確なる證左資料といふ事に話を定める。

の入手を俟つて案山子とス重要に差迫るる借受人は素に費消しつゝある醜行を！田町に毎夜顯現して不純の徴収による約手裏書料を案山子、スツボン、の均等分配とし、或ひは藝者買ひ等

ツボンに纏はる金融カラクリ、彼奴等の本性、及び數々の罪跡等を餘す處なく爆露することゝした。

支店の案山子より支拂を受齒牙に毒されつゝあるのが、

手數料天引に承服し、某銀々益々をの怖るべき背任の

某銀行は今やスツボンと

案山子とのグルによつて愈

が不良貸出たることを承知

のうえからスツボンの真書

案山子の新田町に於けるを發見するものか
卑陋なる醜事實、スツボン 我社は財界攪亂や或ひは銀
の妾を囹りとして爲しつゝ 行を脅喝して餘澤に浴さん 追拂へ！(文責記者大井川

このドク職!
この醜狀!

鈴木喜三郎氏

速かに辭職すべし！

本郡草野村消防組頭であつた三月三日、本縣警察部落成た際、出席者全部より會費り且つ政友會の中心人物として一かごの名譽地位を有する附金として報告されてゐる

鈴木喜三郎氏のこれは眞赤な嘘で實は名に於て文拂はれてゐる。而して亦瀆職的行爲は次の

鈴木喜三郎個人名で

(文責記者 大井川)

り村名譽者達は辭職を勸告寄附しておき縣警察
しつゝあつたが、之に應ず部より本人に對して
る氣色更になく恬として組感謝狀と銀カツプと
頭の職に執着してゐるのでを贈呈してゐる。
然村の輿論を喚起し

如く發展する。
救護船進水式費用豫算とし
て幹部會が決定した額は貳
十五圓であるが、鈴木組頭
の報告によれば實に五十

「鈴木組頭をやめさせろ」の烽火が湧き上つた。

咄！この詐欺的、賣名的ヤマカンの行爲を見ろ！六圓五十錢の支出と已れの名譽心を満たすべなつてゐるのだ。

く公金を個人の名で寄附し、疑點の大小こそあれ斯かる遊興方面に費ひ果されたる而も縣警察部をもたぶらか

是に本誌調査範圍によれば大
 畧次の如きものである。
 (A)會計報告に對する
 疑點
 それに『草野村消防基本金
 』にしてゐるのだ、縣警察部に
 してからが、こんな不吉の
 金を貰つたのかと思へば誠
 に有難迷惑であるに相違な
 い。
 所謂不正支出を累計すれば
 百八圓四十六錢に
 して經常支出の六五六％
 (六割五分六厘)が公金管理
 者たる鈴木組頭の不正なる

寄附金剩餘金報告書」に於て不正支出と見らるゝ點を内譯するに
 十二圓四十一錢
 更に見よ
 これは四倉町柏屋旅館に於て消防協會幹部會を開催し單なる風聞として持上つた
 支出となつてゐるのだ。
 以上を記した點は悉く數
 頭額は昭和四

なくてならぬ。

B) 榮ある組頭として
鈴木喜三郎氏の如き斷じて
デヲ末期社會に於ける道
徳が如何に腐爛せりと雖も

の彼の醜行
草野村の名士、鈴木喜三郎君！
諸君は斯る醜漢を先

氏の瀆職行為が以上の事で
終決を告げてゐるのなら文
句はない、彼の持つて生れ
た性根は情落破倫も甚だし
く日頃種々と批難ある折
除するに當つて政黨、情實
の虜になることなく飽く迄
超政黨的立場に於て彈劾せ
ねばならぬ、寧ろ斯る不純
な分子がいづれの政黨にせ
よ幹事だなど、持上げてお

柄である、本年の舊盃蘭盆
十四日午後十二時頃、草野
村大字六十枚山下武雄氏方
に火災起り消防手が必死に
消火に努めてゐる最中、鈴
木組頭には某未亡人宅に酒
色の狂體に浸つて出所なさ
れ

濱口首相
屍をた
て

經過良好

くことはその政黨政策に於
いても斷乎として排除の喫
緊を感ずること勿論だ。
草野村名譽のために醜頭
を辭めさせろ！

す、後日に及んで端なくも
この醜狀がばれ、村民の痛
憤は勿論一方でなかつたこ
の醜漢が而も草野村消防組
頭たることは、單に草野消
過般のフアジヤ團體の一鼠
輩は郷屋留雄に打たれた濱
口首相は病床に於ける滯留し
てゐた放屁一發によつて身

防組の權威を疵つくる加之
草野村の汚辱甚だしきもの
であり一村の消防手を統率
する名士としては實に心外
千萬不面目此上もない處だ
朝、日日の如く一宰相のへ

さらでだに鼻持ちならぬ
鈴木組頭は、某日植田警察
署が管内料亭の特別非常執
行を行つた際、某亭に同舍
中警官の踏込む處となりそ
の代辯者たる各ブルジョア新聞によつて人格比

の誰何訊問に對して
「俺は草野の組頭で
あるツ」
と許り嘆阿と見得を大いに
さした。

福島刑務所に 鈴木昌雄兄を訪ねて

記者

二十五日付の本紙に左の如き記事
を掲げたことは、昨時に矛盾あるも
のであるが、今回鈴木昌雄君に用
事あり急遽福島刑務所へ赴行した
ため、その発行期が止むことなく運
刊に至つたのである、乞御容赦を

突然、鈴木昌雄君と相談
を要する事件に際し、私
は、同君家族の代理として
今二十五日福島へ赴いた當
夜事情あつて平松ホテルに
投宿し越えて本日(二十六
日)早朝福島刑務所に鈴木
昌雄君への面會を乞ふた。

未決中なら兎も角既決受
刑に至れば、受刑囚と他人
との面會は原則として許さ
れないのであるが、都合よ
く居合せた鈴木辰三郎氏な
ども顔を貸して呉れ、特別
接見が許可されるに至つた

接見室にはいると、其處
には、要談事項を速記する
看守と立會の教師師とが型
の如く陣取つてゐた、問も
なく看守同伴で来たのは勿
論鈴木昌雄君であつた。

半年振りで逢つた、僕の
眼には鈴木君の姿が實に餘
りの變り方で、思はず餘の
熱くなるのを覺えた。

外部にあつても寧ろ脆弱
に近い彼がシャツから帶、
足袋に到る迄で赤づくめで
どつかりテールに頼つて
た顔には、無上の痛々しさ
淋しさ、若干の憔悴さど、
従つて亦獄裡生活に對する
ダルとが、鈍感な僕の頭で
すら充分洞察された位であ

彼は僕が面會を求むるを
の瞬間まで勞役に従事して
ゐたらしい、纏へる獄衣は
作業衣(襦袢)であつた。
昔の彼の繊細な指先が、少
しく腫れ肥つて赤味を帯び
た膚色は、明白に凍傷の苦
勞を加減を示してゐた。

彼の彼が面會を求むるを
の瞬間まで勞役に従事して
ゐたらしい、纏へる獄衣は
作業衣(襦袢)であつた。
昔の彼の繊細な指先が、少
しく腫れ肥つて赤味を帯び
た膚色は、明白に凍傷の苦
勞を加減を示してゐた。

彼の彼が面會を求むるを
の瞬間まで勞役に従事して
ゐたらしい、纏へる獄衣は
作業衣(襦袢)であつた。
昔の彼の繊細な指先が、少
しく腫れ肥つて赤味を帯び
た膚色は、明白に凍傷の苦
勞を加減を示してゐた。

彼の彼が面會を求むるを
の瞬間まで勞役に従事して
ゐたらしい、纏へる獄衣は
作業衣(襦袢)であつた。
昔の彼の繊細な指先が、少
しく腫れ肥つて赤味を帯び
た膚色は、明白に凍傷の苦
勞を加減を示してゐた。

彼の彼が面會を求むるを
の瞬間まで勞役に従事して
ゐたらしい、纏へる獄衣は
作業衣(襦袢)であつた。
昔の彼の繊細な指先が、少
しく腫れ肥つて赤味を帯び
た膚色は、明白に凍傷の苦
勞を加減を示してゐた。

彼の彼が面會を求むるを
の瞬間まで勞役に従事して
ゐたらしい、纏へる獄衣は
作業衣(襦袢)であつた。
昔の彼の繊細な指先が、少
しく腫れ肥つて赤味を帯び
た膚色は、明白に凍傷の苦
勞を加減を示してゐた。

出獄したら二つの事業を起
すべく目下劃策思案を練つ
てゐる事業に就いては手紙
を以て具體的に報告するが
是非大井川君にも協力して
くれ給へ!

彼は話が展開されて行く
に連れて一問答毎に元氣を
見せてゐた。
今回の面會は主に家庭上
の事であつたので、詳細な
發表を控へるが彼は今尠
くも或る力に満ちた信念を
把持してゐるものゝ如くら
しい。

何處かに物凄く迄落着き拂
つた人格の高揚がよく看取
された。
僕は考へた稍々もすると僕
は難多なる下馬評や小事に
氣をもみ、鈴木君家族の支
援をよそに天地一閑の鷗と
して飛出さうと。

律とに仰へられ乍らも来る
べき虎躍の日を待ちつゝ、あ
る長友鈴木君を想ふ時、僕
は已れの心に多少の萌しを
見たこれまでの薄い友情を
深く悔ひずにはゐられな

僕は、僕に生命と、娑婆
に生活するの自由がある限
り、同君の出獄までは汎ゆ
る困難を排して家族を守る
とてとてならう。

二十六日夕
福島よりの歸途の車中にて

獄窓通信
鈴木昌雄

（前略四十五行削除）
兎に角寒くなつて来た僕
には別に異状はないが胃
が悪いのと、兩手の凍傷

で全く閉口した、纖弱な
自分のからだを呪ひ度く
もなる、然し唯不退轉の
意氣を以て沈ゆる困難に
打克たうとしてゐる。

前信にも申し送つた筈だ
が、我等はこの身體が資
本だから溢るゝ健康を保
ちたいものだ。
みんないつも達者でゐて
くれ! さらば

秋陽降る桐の葉深くうなだ
れて
讀經の聲のみ深く澄むなり
かに

讀經の聲のゆらぐ陰よりおそ
かに

内 科
專 門
腸 胃
十 二
指 病

婦 人 病
專 門
皮 膚 病

平 町 南 町
院 醫 村 松

番 七 〇 一 話 電

大 和 田 印 刷 所

平 町 南 町

電 話 四 六 番

東 部 電 力 平 營 業 所
株 式 會 社

所 長 武 田 精 一

和 洋 銅 鐵 金 物 問 屋

父 釜 屋 商 店

平 町 五 丁 目 電 話 九 番 九 九 番

▲ 良 品 の 普 及 に 國 境 な し
健 康 増 進 病 後 の 回 復 等

(一) ま じ り の エ キ ス 三 圓 (二) ス ッ プ ン エ キ ス 二 圓
(三) 諸 毒 下 し の 妙 藥 一 圓 (四) 腦 病 心 臟 の 靈 藥 二 圓
(五) 安 流 丸 二 圓 (六) 神 効 散 二 圓

以上 優 良 品 と し て 御 勧 め 致 し ま す

平 町 五 丁 目 角

總 代 理 店 山 野 邊 藥 局

▲ 藥 事 衛 生 の 御 的 談 は 非 弊 藥 局 へ

酒 類 味 噌 醬 油

綠 川 酒 店

平 町 材 木 町

電 話 四 六 八 番

簡 易 て が る 食 堂

食 事 一 町 通 大 谷 菊 次 郎

平 町 田 町 電 話 五 一 三 番

高 久 病 院

醫 學 士 赤 高 久
新 潟 醫 學 士 佐 竹 菊
內 科 小 兒 科 外 科 花 柳 病 科
耳 鼻 咽 喉 科 レ ン ト ゲ ン 科

山 光 堂

福 島 縣 平 町 四 丁 目
電 話 五 五 〇 番

三 井 吳 服 店

電 話 二 八 四 八 番

磐 城 病 院

院 長 難 波 睦
醫 學 士 賀 澤 忠 治
本 院 主 管 平 町 電 六 四 二 番

藤 沼 醫 院

平 町 電 話 五 〇 七 番